トップに聞く

日本ブッシュ

笹部 陽一郎社長

自然エネ転換追い風

福島第1原発事故を境に自然エネルギーへの転換の議論が進むなか、県内の関連産業がビジネスチャンスを見いだしている。産業用ポンプ世界大手、独ブッシュの日本法人である日本ブッシュ（平塚市）は、太陽光パネル向けの事業を強化。国内シェア獲得に攻勢をかけている。今後の経営戦略について笹部陽一郎社長に聞いた。（聞き手・中尾 浩之）

ささべ・よういちろう 78年早大理工学部卒、神鋼商事入社。04年ヘレウスクルツァージャパン副社長を経て、09年から日本ブッシュ社長。大阪府出身、56歳。

―太陽光パネルなどの市場環境をどう見るか。

「太陽光パネルは、これまで国内メーカーが生産量で上位を占めていたが、中国や米国などの海外勢の台頭も著しく、日本勢は苦戦を強いられている。海外勢の日本市場参入は続くだろう。とはいえ太陽光発電や風力発電の普及が半導体や設備・システムなどの多くの関連産業に好影響をもたらすのは間違いない。『太陽光パネルの需要は2年ほどで5～10倍まで伸びる』と期待する取引先もいる」

「当社が扱うポンプも、真空状態をつくりだすことが求められる太陽光パネルの製造工程で不可欠。競合する企業が増えるなか、顧客の要望にあったカスタム品を伸ばしていくことが、差別化策の一つだと思っている」

―既存の取引先にも変化は出ていますか。

「火力発電の需要が盛り返すという見込みから、発電時のCO_2排出が少ない液化天然ガス（LNG）に注目する企業が増えている。4月には大手造船会社から、LNG向けの蒸気タービンの稼働に必要な真空ポンプの受注があった。船舶向けは1月に新規参入したばかりだが、同分野だけで初年度で年間5千万円、3年後には約3億円まで売上高の拡大が見込める」

―震災を受け、経営的な判断に変化は。

「3年以内に明石（兵庫県）の営業所近くに工場をつくりたい。営業拠点は平塚本社をはじめ東京や愛知、明石と全国4カ所あるが、工場を持つのは平塚のみ。これまでも西日本に工場を持つことは考えてきたが、震災で現実味が出てきた。リスク分散につなげたい」

◆日本ブッシュ 真空ポンプや真空システムほか関連機器の販売、修理。1981年6月創立。資本金2千万円。従業員85人。本社は平塚市めぐみが丘1の23の33。☎0463（50）4000